

社会学部

【2024年度大学評価総評】

社会学部では COVID-19 が 5 類に移行したことを受け、授業を原則対面に戻すとともに、コロナ禍中に獲得したオンライン授業のノウハウを活かし、対面授業とオンライン授業やオンデマンド授業の特長や利点を授業改善アンケートの満足度データなども参照しながら、次年度の方針を検討している。また 2022 年度から導入された外国語新カリキュラムの適切な運用とその教育効果について継続的な検討が行われている。さらに「先輩による履修相談窓口」など個別の履修相談会を設け、その効果的な運用を行っている点は評価できる。なお学修成果可視化システム (Ha1o) の組織的活用が不十分との認識が有るので、今後は他学部などの活用事例なども参考にしながら、教授会執行部等で組織的な活用方法を検討することが期待される。社会貢献・社会連携では、ソーシャルイノベーションセンターと学部が連携し、社会調査実習や八王子住民向け報告会の実施など新たな取り組みが実現されたことは高く評価できる。

大学基準協会の第 4 期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024 年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	「いいえ」が選択されている評価項目があるが、課題が見いだされ、適切な改善計画が立てられていることが確認できた。
--------------------------------------	---

【2024 年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準 1 理念・目的

- 1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①学部（学科）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②学部（学科）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
・社会学部の理念と目的 https://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/rinen/	

基準 2 内部質保証

- 2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①学部において、学部長及び教授会・委員会等の役割や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②学部において、質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
・社会学部教授会議事録および回覧資料	

基準 3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準 4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

- 4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・社会学部ディプロマポリシー https://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/policy/diploma/ ・社会学部カリキュラムポリシー https://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/policy/curriculum/ 	

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学学則」第23条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・各年度社会学部履修要綱 https://hosei-hondana.actibookone.com/category/list?param=eyJjYXRlZ29yeV9udW0iOjY4MDd9 ・社会学部 シラバス https://syllabus.hosei.ac.jp/web/head.php?gakubueng=AE&t_mode=sp 	

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①「法政大学学則」第22条の2（履修科目の登録の上限）に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④ICTを利用した遠隔授業は「2023年度授業実施方針について」に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3⑤学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応を行っていますか。	はい
4.3⑥単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑦シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑧授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達	はい

成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> 各年度社会学部履修要綱 https://hosei-hondana.actibookone.com/category/list?param=eyJjYXRlZ29yeV9udW0iOjY4MDd9 社会学部 シラバス https://syllabus.hosei.ac.jp/web/head.php?gakubueng=AE&t_mode=sp 各年度社会学部カリキュラムツリー（履修要綱に掲載） 各年度社会学部カリキュラムマップ（履修要綱に掲載） 	

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学学則」第17条（卒業所要単位）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑥ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> 社会学部教務委員会、教授会回覧資料（転編入学生個別審査結果の回覧審議承認）、 各年度履修要綱 https://hosei-hondana.actibookone.com/category/list?param=eyJjYXRlZ29yeV9udW0iOjY4MDd9 	

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5②入学前アンケート及び卒業生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5③学修成果可視化システム（Halo）を組織的に活用していますか。	いいえ
【具体的な活用事例】	
①授業改善アンケートならびに②入学前・卒業生アンケートについては、執行部で内容を確認し、教授会で共有している（教授会資料、議事録）	

基準5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①学位課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> 社会学部アドミッションポリシー https://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/policy/admission/ 入試要綱 	

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均と収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	はい
【根拠資料】	
・教授会配付資料（4.教務報告各年度社会学部入学者について）	

表1

学部・学科における入学定員充足率の5年平均	0.90以上1.20未満
学部・学科における収容定員充足率	0.90以上1.20未満

基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①学部の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	はい
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
・社会学部内規	

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っていますか。	はい
6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・社会学部内規 ・公募資料 ・教授会議事録（新規採用） ・教授会議事録（昇格人事推薦） 	

基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい
7.1④ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っていますか。	はい
【根拠資料】	
・教授会議事録	

基準 8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・入学時ガイダンス ・基礎演習配付資料 	

基準 9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・広報委員会実施報告 ・SIC 委員会報告 	

基準 10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
4 教育・学習	4.5③学修成果可視化システム (Halo) を組織的に活用していますか。
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	
Halo のシステムは個々の教員が利用することに最適化されており、組織的に利用することは困難であると感じている。とはいえ組織的な活用には期待感もあるので、他学部などでの活用事例などがあれば参考にして今後の導入も検討したい。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2023 年度大学評価結果総評】（参考）</p> <p>2022 年度の総評では、With コロナ、ポストコロナに向けての対面授業／オンライン授業の選択等の授業運営のあり方、カリキュラム全体の中での配置、望ましい時間割編成についての検討が課題として求められていた。社会学部では、こうした課題を適切に把握し、授業形態の運営については、教育効果を高めるための方法という観点からの選択とその実践の結果について担当教員間で情報の共有を図っている。またカリキュラム全体の中での配置については、各コース、学科、科目区分ごとの教員グループで検討を促している。さらに時間割編成と履修年度進行については、時間割や教室割等を考慮しながら、初年度履修科目を中心に、2 年生以上の専門科目でスムーズな理解が出来る様な先行知識の習得が可能になるように構成を検討している。</p> <p>また 2022 年度総評にあった学生の学修成果の的確な把握についても、成績上位者・下位者のデータを分析し、授業改善アンケート結果と合わせて、行うべき課題について執行部と教務委員会で検討を行っている。あわせて総評で期待されていた社会貢献・連携についても、多摩地域交流センターを通じた継続的な取り組みが行われている。また、学習成果の欄で課題として掲げられていた外国語教育のカリキュラム変更の検証については、中期目標、2022 年度重点目標として設定されており、質保証委員会からの提言も受け、運営状況の情報交換が行われている。今後は把握した結果に基づいた改善・向上が望まれる。</p>
--

社会学部においては、今後もこれらの取り組みを継続し、新しいカリキュラム体系の円滑な運用と教育効果の検証とあわせて引き続き取り組んでいくことを期待したい。

【2023年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

COVID-19が5類に指定されたことをうけて、授業を原則対面とすることに戻した。その一方で、コロナ禍中に獲得したオンライン授業のノウハウを生かすことや、オンライン授業によってより学生の習得効果が見込めるケースなどを考慮し、さらにさまざまな配慮を求められる学生への対応などの面からも、一律にオンライン授業を排除することはせず、文科省からの指導で許容される範囲内で有効活用する道も残すようにした。

期待されていた社会貢献・連携については、多摩地域交流センターがソーシャルイノベーションセンターに改組され、より発展的な取り組みを始めたところである。

2 各基準の改善・向上

基準4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5④アセスメントポリシー（学習成果を把握（測定）する方法）は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5⑤アセスメントポリシーに基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）

	善を困難とする要因がある。	
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①学部内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
6.3②学部内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

III 2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 2022 年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図る (2022 年度～2025 年度) 2022 年度生の外国語教育の見通しが見え始める 2024 年度以降、外国語新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・2018 年度から導入したカリキュラムについて評価検討し、今後のカリキュラムについて検討する。 	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの2年目の運営状況について、教員間で情報共有を図る。 ・新カリキュラム下での学習の円滑化を図る。 ・2018 年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集を行う。 	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会、外国語教育委員会、学科カリキュラム運営会議などで、2年目のカリキュラムの運営状況に関する情報共有ができています。 ・学生に対し、適切なガイダンスを実施する。 ・2018 年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集蓄積がある。 	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会、教務委員会、外国語教育委員会、学科カリキュラム運営会議を予定通り開催し、カリキュラムの運営状況について情報交換した。 ・春学期授業開始前に必要なガイダンスを行った。秋学期中にも学科ごとにコース選択ガイダンスを行った。 ・2018 年度から導入されたカリキュラムについて情報蓄積、評価検討を行い、将来構想・人事構想委員会において将来の改革へ向けた提言を取りまとめた。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・各会議体において、より詳細なかたちで課題の洗い出しを進める。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	2018 年度カリキュラムの評価検討の情報収集が達成され、将来構想・人事構想委員会における将来の改革へ向けた提言が出されており、中期目標の達成につながる成果もあげている。年度を通じ各種会議体の開催、ガイダンス等も着実に実施されている点は高く評価できる。
改善のための提言	各会議体において、洗い出された課題を教授会などを通じ全体に共有するようにしてほしい。また、学生によるコース選択の偏り、演習選択への偏りをなくすための方策を考えてみてほしい。	
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせるの質の高い授業を検討する。 	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による履修相談会、前年度開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスを着実に実施していく。 ・ポストコロナに向けて、教育効果の観点から、授業改善アンケートなども活用しつつ、対面授業、オンライン授業、オンデマンド授業の使い分けについて検討を続ける。 	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による履修相談会、「先輩による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスを実施している。 ・対面授業、オンライン授業、オンデマンド授業の特長、科目ごとの利点と不利点について、教員ごとに検討する。 	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、「先輩学生による相談窓口」、コース選択ガイダンスを予定通り実施した。 ・授業改善アンケートの満足度のデータを参照しながら、次年度はオンライン授業（オンデマンド授業を含む）をどのくらい開講するかの方針を教授会で検討した。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「先輩学生による相談窓口」が好評のため、さらに効果的な運用のあり方を検討する。 ・オンライン授業に対する学生による評価を検証するとともに、「学生に実験体験をしてもらうためオンライン授業を効果的に利用する」と申請のあった授業を中心に、オ

	オンライン授業の活用方法についての検討を進める。
	質保証委員会による点検・評価
所見	好評を得た「先輩学生による相談窓口」など各相談会を円滑に実施できた。また、ポストコロナ下での授業形態について、学生からの授業に関するフィードバックを反映し適切な対応ができています。
改善のための提言	コロナにおいて蓄積されたオンライン授業に関する知見と対面授業のメリットを組み合わせたより教育効果の高いハイブリッドな授業形態への取り組みを進めてほしい。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育のうち基礎演習の在り方について、より効果的な教育内容、教育方法、少人数教育の一層の充実化を進める。 ・学部教育の中心的存在である演習1、2、3について履修率、卒業論文の提出率の向上を目指す。また、優秀卒業論文集の刊行を継続し、各演習での学習に活用する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習の教育内容の向上のために、基礎演習担当者による懇談会の成果を活用する。 ・基礎演習各クラスの状況と問題点を把握する。 ・演習1、2、3の履修率と卒業論文の提出率を向上させる方法の検討にむけて、履修状況、運営実態を分析する。 ・優秀卒業論文集をweb公開し、活用しやすくする。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習担当者による懇談会の成果を活用して、必要に応じて、基礎演習の教育内容の向上策を提案できている。 ・演習1、2、3の履修状況、運営実態の分析・検討が進められている。 ・優秀卒業論文集の刊行、web公開している。
	教授会執行部による点検・評価
自己評価	A
理由	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習担当者にアンケートを行った上で、2回の懇談会を実施した。1年生の学習態度の傾向についてのアンケートの結果が興味深かったため、教授会でも結果を共有した。 ・専門演習の履修率および卒業論文の提出率の低下が懸念されているため、履修の動機づけを高める方策について上記の懇談会や教授会で検討した。 ・前年度の優秀卒業論文集を刊行しWeb公開を行い、今年度の優秀卒業論文集の掲載論文を選考・決定した。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・23年度は卒論提出率の低下に歯止めがかかってきたため、1年生の専門演習を履修する動機づけを高める方策についてさらに検討を進める。
	質保証委員会による点検・評価
所見	専門演習の履修率を高めるための検討を進めた。演習募集の時期の問題、学生の意向などさまざまな要因がある。今後も検討を進めてもらいたい。優秀論文への応募者増加とそれへの対応なども今後の課題である。
改善のための提言	コロナを経た学生の過剰なコスバ・タイパ意識の高まりに対する対応を検討してほしい。卒業論文の提出率のさらなるアップのために、「動機づけ」の内容や手法について多角的に検討してほしい。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した定員充足率が維持できるよう査定する。 ・高等学校の新教育課程の開始に対応して入試科目等の内容を検討する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した入学定員が維持されるよう、査定とそのため情報収集に努める。 ・入学センターから入試制度の検討のための情報収集を行う。 ・入試経路別に入学後に対応可能な受入状況を想定しての入学者数に対する適切な比率を検討する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した定員充足率が維持されている。 ・入試制度の導入を検討するため収集した情報を精査する。 ・入試経路によっては総入学者数に対する、入学後の対応可能な学習状況に適切な比率

		が示されている。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> 安定した定員充足率が維持されている。 入試制度の情報を精査し、方式別合格者数に反映させた。
	改善策	・2025年入学生からの新課程に対応し、入試制度の適切性について検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	入試制度の見直しが着実に進められており、定員充足率の安定化に寄与している。
	改善のための提言	各種入試情報を精査することで、入試制度変更に左右されず定員充足率安定に努めてほしい。
評価基準		教員・教員組織
中期目標	・2022年度から将来構想委員会、以降に人事構想委員会をもって、適切な専任教員の採用について検討し順次実行していく。	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 専任教員の欠員見込み状況を確認する。 欠員状況について、適切な科目設定などを確認する。 専任教員の欠員について採用対応する。 	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 専任教員の欠員見込み状況が確認できている。 欠員に対する適切な科目設定などが確認されている。 専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。 	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<ul style="list-style-type: none"> 「社会調査」および「メディア文化論」の採用人事を行うとともに、将来構想・人事構想委員会において今後の専任教員の退職を受けた欠員補充のあり方について検討した。 将来構想・人事構想委員会において、「視野形成科目」のあり方について検討を進め、将来の改革へ向けた提言を取りまとめた。
	改善策	・「視野形成科目」について、カリキュラムの具体的な変更を視野に収めて検討を進める。また、初年次の諸外国語の履修動向の変化を見据えて、必要な改革を検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	人事が着実に進められており、今後の補充についてもいち早い対応がなされた点を高く評価したい。(募集時期の見直し、採否の決定を早めるための対応)
	改善のための提言	採用に関する教員の負担を考慮し、採用業務の適切な合理化の可能性を探る必要があるのではないかと。
評価基準		学生支援
中期目標	・オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、「先輩学生による相談窓口」(2022年度新規)、成績不振学生に対する個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 前年度新規に開始した「先輩学生による相談窓口」を実施し、ポストコロナのキャンパス生活に関する不安に対応する。 「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修学支援を行う。 オフィスアワーの実施を徹底する。 	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 「先輩学生による相談窓口」の実施 「個別学修相談会」を通じ、成績不振学生の修学支援の成果が出ている。 オフィスアワーが設定され、情報提供されている。 	
年度末	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<ul style="list-style-type: none"> 開始2年目の「先輩学生による相談窓口」は、今年度も実施して好評であった。 成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」を、例年通り実施した。

報告		<ul style="list-style-type: none"> ・教授会において多摩キャリアセンターによる学部生の就職動向の報告を実施し、就職支援のあり方について理解を深めた。 ・各教員がオフィスアワーを設定し、学生の相談に対応した。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「先輩学生による相談窓口」が好評のため、さらに効果的な運用のあり方を検討する。 ・学生相談室の利用者が多かったため、学生生活に馴染めない特に1年生の支援ついて、教員の理解と協力を呼びかける。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	ポストコロナのキャンパス生活への不安を解消するためのさまざまな取り組みが進められており、効果を発揮している。「先輩学生による相談窓口」が好評のため、学生への周知を広める改善策は妥当である。
	改善のための提言	ポストコロナ下においても学生のメンタル問題については引き続き注意を払っていくことが望まれる。教職員への学生相談室主任カウンセラーによるレクチャーを受ける機会を設けてはどうか。
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩キャンパスで取り組んでいる多摩地域交流センター、グローバル教育センターなどが進める事業及び学部の共催協賛等の事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。 	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩地域交流センターあらためソーシャル・イノベーションセンター（S I C）、グローバル教育センターなどが進める事業を着実に実施する。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加を継続する。 ・社会学コロキウムなどの研究集会について、可能な範囲で学外にも公開する。 	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル・イノベーションセンター（S I C）、グローバル教育センターが進める事業の実施。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加。 ・社会学コロキウムなどが実施され、学外にも公開されている。 	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・開設されたソーシャル・イノベーション・センターおよびグローバル教育センターが進める事業について、専任教員の参加を呼びかけた。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などに引き続き協力した。 ・八王子市文化財課及郷土資料館、S I Cを介しての、社会調査実習での八王子まつりの学生による調査と報告書の作成、住民向け報告会が実現した。 ・社会学コロキウムとして、「メディアフレームへの接近」および「石牟礼道子が生きた水俣」の2回を公開で開催した。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル・イノベーション・センターを通して行われる社会貢献・社会連携に、さらに協力する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	ソーシャル・イノベーション・センターをはじめとする各部署と学部との連携、社会調査実習での取り組みが地域社会との連携を促した点を高く評価したい。
改善のための提言	教員と学生の参加による地域・社会連携に関する報告や活動が、さらに活発になることを期待する。	
<p>【重点目標】 社会学部にとっては、前年度に引き続き、2022年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図ることが最も重要である。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの適切な運営が図られているか専任教員間で情報共有を行う。また、1年生、2年生の履修登録などで適切な情報提供を行い、1年次、2年次学生が新外国語カリキュラムにスムーズに適応できるよう</p>		

に修学支援を行う。
<p>【年度目標達成状況総括】</p> <p>全体として、着実に達成指標をクリアしている。</p> <p>2022年度からの外国語新カリキュラムも、着実に運営されている。</p> <p>一部の内容については、対応がさらに進んでいる。特に社会貢献・社会連携分野では、八王子市と授業科目の連携が実現した。</p> <p>次年度以降も引き続き各年度目標の着実な達成を目指す。</p>

IV 2024年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図る（2022年度～2025年度） ・2022年度生の外国語教育の見通しが見え始める2024年度以降、外国語新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。 ・2018年度から導入したカリキュラムについて評価検討し、今後のカリキュラムについて検討する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語新カリキュラム開始時にあたる2022年度生の外国語教育に対する教育効果に関する中間評価に着手する。新カリキュラムの3年目の運営状況について情報収集を図る。この際、教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」を使う。 ・2018年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集を行い、各会議体において、より詳細なかたちで課題の洗い出しを進める。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会、外国語教育委員会、学科カリキュラム運営会議などで、2022年度生の外国語教育に対する教育効果に関する中間評価に資する情報が共有ができています。 ・2018年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集蓄積があり、詳細なかたちで課題が洗い出されている。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・Withコロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせるの質の高い授業を検討する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による履修相談会、2022年度に開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンス、の成果や効果の評価し、より効果的な対応方法について検討していく。 ・コロナが5類になり、感染予防の意義に加えてコロナ禍中に獲得したオンライン活用スキルのより有効な活用も視野に、対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の使い分けについて検討を続ける。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで実施してきた各種相談会や窓口の成果や効果が把握され、より効果的な対応方法についての知見が得られ、適正化の具体策が提示されている。 ・対面・オンライン・オンデマンド等の授業形態の特長、科目ごとの利点と不利点について、教員や科目ごとに最適化する具体策が提示されている。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育のうち基礎演習の在り方について、より効果的な教育内容、教育方法、少人数教育の一層の充実化を進める。 ・学部教育の中心的存在である演習1、2、3について履修率、卒業論文の提出率の向上を目指す。また、優秀卒業論文集の刊行を継続し、各演習での学習に活用する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習の教育内容の向上のために、担当者懇談会の成果を活用することを継続する。 ・基礎演習各クラスの状況と問題点を把握し、複数年度に渡って未解決の問題点の改善に着手する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・演習 1、2、3 の履修率と卒業論文の提出率を向上させる方法が有効に機能しているかの確認にむけて、履修状況、運営実態を分析する。 ・web 公開された優秀卒業論文集の活用状況について把握し、活用事例などを紹介するなどして「動機づけ」を促し、卒業論文の提出率のさらなるアップにつなげる。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習担当者による懇談会の成果を活用して、必要に応じて、基礎演習の教育内容の向上策を提案でき、複数年度に渡って未解決の問題を把握できている。 ・演習 1、2、3 の履修率と卒業論文の提出率を向上させる方法が有効に機能しているかの分析が行われ、有効に機能しているかどうかを判明している。 ・優秀卒業論文集の刊行、web 公開が卒論の「動機づけ」につながっている。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した定員充足率が維持できるよう査定する。 ・高等学校の新教育課程の開始に対応して入試科目等の内容を検討する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した入学定員が維持されるよう、査定とそのための情報収集に努める。 ・入学センターから入試制度の検討のための情報収集を行う。 ・2025 年入学生からの新課程に対応しつつ、入試経路別に適切な比率を検討する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した定員充足率が維持されている。 ・入試制度の導入を検討するため収集した情報を精査する。 ・2025 年入学生からの新課程への対応策が明示され、入試経路別の適切な比率が示されている。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2022 年度から将来構想委員会、以降に人事構想委員会をもって、適切な専任教員の採用について検討し順次実行していく。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員の欠員見込み状況を確認する。 ・欠員状況について、適切な科目設定などを確認する。 ・専任教員の欠員について採用対応する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員の欠員見込み状況が確認できている。 ・欠員に対する適切な科目設定などが確認されている。 ・専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。
評価基準	学生支援
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、「先輩学生による相談窓口」（2022 年度新規）、成績不振学生に対する個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2022 年度に開始した「先輩学生による相談窓口」の実施を継続すると共により効果的なありかたも検討し、初年度学生のキャンパス生活に関する不安に対応する。 ・「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修学支援を行う。 ・オフィスアワーの実施を徹底する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・好評である「先輩学生による相談窓口」が着実に実施され、より効果的な運用ができている。 ・「個別学修相談会」を通じ、成績不振学生の修学支援の成果が出ている。 ・オフィスアワーが設定され、情報提供されている。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩キャンパスで取り組んでいる多摩地域交流センター、グローバル教育センターなどが進める事業及び学部の共催協賛等の事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル・イノベーションセンター（S I C）、グローバル教育センターなどが進める事業を着実に実施する。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加を継続する。 ・社会学コロキウムなどの研究集会について、可能な範囲で学外にも公開する。

達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル・イノベーションセンター（S I C）、グローバル教育センターが進める事業が実施されている。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などに参加している。 ・社会学コロキウムなどが実施され、学外にも公開されている。
<p>【重点目標】 社会学部にとっては、2022年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図りつつ、その教育効果に関する中間評価に着手することが最も重要である。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの適切な運営が図られているか専任教員間で情報共有を行うとともに、2022年度生の外国語教育に対する教育効果に関する中間評価に資する情報を共有する。</p>	